

ちゅうそん

# 虫損直しとその工程

## 虫損直しとは

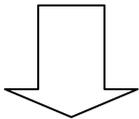
和装本の材料である和紙は、楮<sup>こうぞ</sup>、三桮<sup>みつまた</sup>、雁皮<sup>かんぴ</sup>などの植物を原料としている。そのため保存方法が悪いと虫食いによる損傷（虫損）が生じる。

虫損直しには繕い、裏打ち、漉き嵌め<sup>すきばめ</sup>（リーフキャストイング）などの方法がある。それぞれ長所、短所があるが、下に工程を示した「繕い」による方法は本紙への影響を最小限にし、また、その資料の持つ風合いをそのまま残すには最適の方法といえる。

なお、いずれの方法にせよ、使用する和紙は不純物がよく取り除かれ、化学的処置が少ないものを選ぶことが肝要である。修復には楮100%を原料とした楮紙<sup>ちよし</sup>を使うことが多い。楮は三桮、雁皮などと比較して繊維が最も長く、何にもよくなじむ。また、糊は防腐剤や不純物の混入しない小麦でんぷん<sup>しょうぶのり</sup>100%から作る生麩糊を使う。

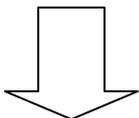
## 1 解体

糸を切り、一紙毎に分離する。



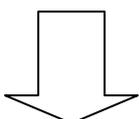
## 2 紙合わせ

本紙に合った厚さ・色・風合いの紙を選ぶ。



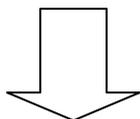
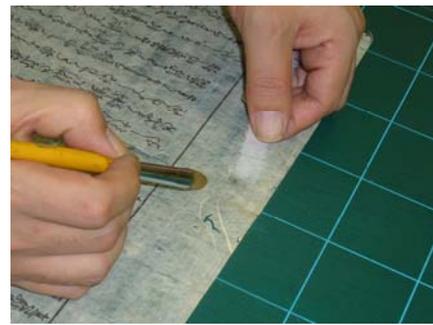
## 3 喰裂作り

和紙を湿らせ手でちぎり、和紙の繊維を出した喰裂を作る。



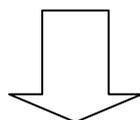
## 4 繕い

本紙の裏から、虫損に合わせて喰裂を、水で薄めた生麩糊で貼る。



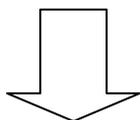
## 5 化粧裁ち

本紙からはみ出た余分な和紙を切り落とす。



## 6 締め置き

厚くなった繕い部分が平らになるまで締めておく。



## 7 仕立直し

中綴じ、糸綴じをして再製本する。

